

また、市では、丘陵地帯で宅地開発や市街化が進展したが、急な斜面地等に森林などのみどりが残されており、これをグリーンベルトと呼んでいる。市の第五次総合計画では、これをまちの品格を高める要素として保全に努めることが示されている。

4. 市におけるみどりの要素の整理

計画の基本方針を検討するにあたり、市にはどのようなみどりが存在し人々と関わり合っているのかについて、市の実情や現地踏査を踏まえ、「環境保全」「防災」「レクリエーション」「景観」の視点より整理・分析を行った。

まず、市は豊かなみどりに恵まれており、市街地にも郊外にも様々な種類のみどりが分布している。それらのみどりを適切に維持・保全・整備することにより、動植物が共生・生育する空間を守り、生態系の多様性の維持・回復を図ることができ、またさらに、災害から市民の生命を守ることもできる。この視点を『生命(いのち)を守るみどり』と位置づけた。

また、市は少子高齢化による人口減少に伴い、活力の低下が懸念される。市の活力を維持・向上させるためには、観光等を楽しむ来訪者と、日常的にみどりと触れ合い暮らしている市民の双方に対しての働きかけが必要である。

来訪者については、市の特性であった農林産物をさらに伸ばし、農林産品の買物・飲食等により市外から集客ができると考えられる。また、市には山林・里山やグリーンベルトなど、観光や地域体験メニューが展開できる可能性があるみどりが豊富にある。これらを活用し、森林レクリエーションなどの新たな観光の展開や、統合医療拠点による自然体感型の医療サービスなどを提供することで、同時に市のみどりの魅力も提供でき、市が持っている人を誘引する力をさらに強化できると考える。この視点を、『まちの活力を生み出すみどり』と位置づけた

市民については、みどりは日常的に身近に触れ合うもののひとつであり、公園・緑地や道路、水辺など、身近にみどりのある空間を整備、誘導することで、みどりに彩られた暮らしの中での楽しみや本市に住まうことの魅力をさらに引き出すことができると考える。また、緑化活動や緑地整備などへの参加を促すことにより、それらみどりと密接にかかわる生活を創造し、さらに市民間のコミュニティを形成するなど、市民の生活をより充実させることができると考える。この視点を『生活を彩るみどり』と位置づけた。

市は歴史的資源にも恵まれており、単に重要文化財や保護樹などの物的景観だけでなく、だんじり祭りのような、地域に根付く人々の活動風景も確認でき、そこには随所に

みどりが存在し、市の特徴的な空間を印象づけている。このような魅力的な小空間を保持することで、地域のアイデンティティを継承し、河内長野市らしい景観が形成されていくと考えられる。この視点を『歴史をつなぐみどり』として位置づけた。

以上の視点を踏まえ、河内長野市のみどりにおけるキーワードを以下のようにまとめた(図-2)。

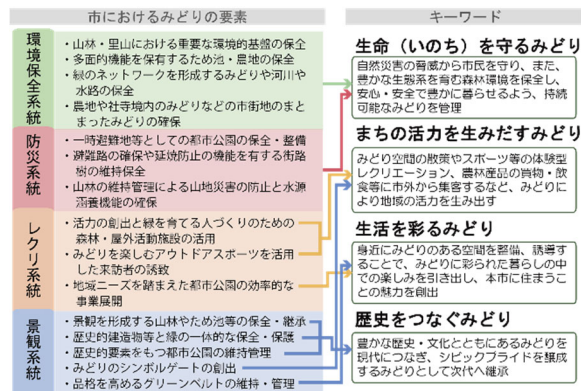


図-2 みどりの要素とキーワードの整理

5. 計画の策定

前段で分析した、市のみどりを形づくる要素である「生命」、「歴史」、「活力」、「生活」を実際にみどりの基本計画として落とし込んだ。計画内容の検討にあたり、グリーンベルトにおける休憩スポットや遊歩道の整備など、ハード整備の可能性も想定し、基本方針や取り組みを設定した。また、計画の内容が市民にも分かりやすく理解が得られるよう、「みどりの保全」、「みどりの活用」、「都市公園の魅力向上」、「生命を守るみどりのまちづくり」「市民参加によるみどりのまちづくりの推進」の5つの柱を基本方針として設定し、取り組みの方向を明確に示した。

計画で決められた今回の業務では、河内長野市にけるみどりの要素を抽出し、4つの視点で分類を行い、これらを基礎として計画内容を検討した。みどりにおいてもそれらが持つ機能は様々であり、国総研が述べるように、どの機能を充実させるかは都市の実情や緑地の特性を踏まえ柔軟に検討することが望ましい²⁾。今後も、みどりの基本計画の策定・改定に当たり、みどりの要素と視点の分析を行い、その地域の理解を深める取り組みを積極的に行いたい。

参考文献

- 1) 国土交通省 国土技術政策総合研究所：これからの社会を支える都市緑地計画の展望，国土技術政策総合研究所資料，H28.6. P.5
- 2) 同書，p.13